



ちょっとお茶にしませんか

第2話

鉄好人海外行

時間待ちには折り紙を

山本誠志

Masashi Yamamoto

日科情報株式会社 (元) 住友金属工業 (株)

「時間待ち」のとき、みなさんはどういう風に時間をつぶしますか。特に、一人のときは。

海外では、よくホテルのロビーやコーヒESHOPなどで、現地のひとと待ち合わせたり、打合せをしたりしますね。早く着きすぎたとか、相手が何らかの事情で遅れる場合に、時間待ちを余儀なくされることがままあります。さて、どうして時間をつぶそうかと、思わずうんざりしたことはありませんか。まわりは見知らぬひとばかり、しかも外人です。ウインドショッピングも億劫だし、読む本も持ってないし。実に、身の置き所がないという気持ちになりませんか。

こんな場合に「とっておきの手」があります。

「折り紙です」。みなさんも小さいとき折ったことがあるでしょう。簡単なものでいいのです。「帆掛け舟」「奴さん」「袴」「兜」で充分です。「鶴」など手の込んだものも折れるに越したことはありませんが。

紙はフロントかコーヒESHOPでメモ用紙を数枚ももらえば充分です。正方形にカットして折り紙の代用にします。おもむろに、テーブルの上で、マジシャンになったような気持ちで、ちょっとカッコ付けて、ゆっくりと大げさに折っていきます。作品が一つできあがると、それを前にしてまわりを見回します。結構、まわりのひとはみているものです。同じように時間待ちをしているのでしょうか。

ここで、次の作品を決めるのです。坊や連れの家族がいたとします。私は「帆掛け舟」をつくります。坊やを手招きします。坊やは興味深げにやってきます。帆の部分をつかませて目をつむらせます。つむっている間に折りを変えて、帆と触先を入れ替えます。坊やが目を開け、あれ？という表情に

なります。もう一度、目をつむらせ、その間に元の帆の状態に戻します。ふたたび驚きます。お互いに無言です。言葉は要りません。まさにパントマイムです。みているひとは大喜びです。坊やにプレゼントします。

次に、お嬢ちゃんが近づいてきました。

今度は「奴さん」と「袴」と折ります。二つを真ん中でつなぎ、顔を書けば、お人形のできあがりです。しかし、私が書けば、どうしても日本的なこわい顔になります。お嬢ちゃんのパパ・ママもみえています。そこで、ママに書いてもらいます。すると、外人っぽい優しい顔になります。お嬢ちゃんにあげます。

まだ、待ち人があらわれません。

さっきの坊やが、また近づいてきました。お人形に興味があるようです。「奴さん」と「袴」、さらに「兜」をつくります。「兜」は紙の大きさを四分の一にして折ると、「奴さん」の頭にぴったりとかぶせられます。三部作です。顔を書きます。袖の部分に家紋も書きます。坊やは大喜びです。ここで、パパとの会話が始まります。これはなんていうのかと。「ジャパニーズ・サムライ」で、だいたい通じます。家紋の代わりに「エンブレム」に書き直したりもします。

やっと、待ち人がきました。ちょっと前に着いていたが、ささやかな文化交流が一段落するのを待っていたそうです。

「折り紙」は日本独自のものでしょうか。たった一枚の紙を切ったり貼ったりせずに、ただ折るだけで作品ができるなんて、外人には信じられないようです。私のように太く短い指で折り紙を器用に折ることは、外人のみならず、日本人にも信じられないようです。でも、外人から折り方を教えてほしいと頼まれたことはありません。指先の器用さは、日本人にはかなわないとあきらめているのでしょうか。

新聞紙などで「兜」をつくって、かぶらせてあげることもあります。

コーヒESHOPなどで、客の少ない時間には、ウエイレスのお嬢さんがひとりまたひとりと集まってくることもあります。こんなときは「鶴」「箱」「指輪」などをつくって、プレゼントします。そのあとのサービスのよいこと請け合いです。

「折り紙は身を助く」というか、文化交流にも役立ったというお話でした。